

# 改訂の序

近年、数多くの薬が創られ、多くの疾患の薬物療法が可能になりました。しかし、同じ疾患に対する治療薬でも作用機序の異なるものや同じ系統の類似薬が多数存在することがあり、どの薬を選べばよいか判断に迷うことがある、という臨床医の声をしばしば聞きます。このような声に応えるために、2009年に「類似薬の使い分け」を出版しました。この初版では、患者の病態や合併症などを考慮し、個々の患者に合った適切な薬の使い分けについて症例も踏まえて具体的にわかりやすく解説したところ、大変好評を博し、増刷を重ねてきました。

初版の出版より5年が経過し、その間に新薬の登場や各種診療ガイドラインの改訂によって薬物療法の内容も大きく変わったため、この度、内容を改訂し最新の情報に改めることになりました。さらに、初版では高血圧や糖尿病などの薬の使い分けが難しいとされる15の疾患を対象にしましたが、改訂版では、近年患者数が増え社会的に問題となることが多いうつ病と認知症を新たに加え、内容を充実させました。

本書では、最初にそれぞれの疾患における基本的治療方針および使われる薬のカテゴリー（系統）ごとの使い分けについて、次いでそれぞれのカテゴリーにおける類似薬の使い分けについて各疾患の専門家の先生方に解説していただきました。実際の症例も取り入れながらわかりやすくまとめていただきましたので、今後の診療に役立つものと思います。本書によって類似薬の使い分けが適切に行われ、薬が適正に使用されることを期待しています。

最後に、本書の企画・編集にご協力いただきました羊土社編集部のお本佳子様と小野寺真紀様にお礼申し上げます。

2014年7月

藤村 昭夫